

第5巻 第2号 昭和60年11月

ISSN 0287-5330
Vol. 5, No. 2, Nov., 1985

日本看護科学会誌

Journal of Japan Academy of Nursing Science

第 5 回

日本看護科学学会

講 演 集

昭和60年11月

日 看 科 会 誌

J. Jpn. Acad. Nurs. Sci.

日本看護科学学会

JAPAN ACADEMY OF NURSING SCIENCE

○大岩外志子（ライフプランニングセンター）

小島操子 高木廣文（聖路加看護大学）

はじめに 慢性疾患々者にとって、セルフケア行動は、健康状態の維持・疾病のコントロールのために必要不可欠な保健行動である。Becker らの保健信念モデルによると、保健行動は保健信念（Health Beliefs）より生じるとされており、慢性疾患クリニックなどの実際の場面でも、患者の健康に対する考え方がセルフケア行動に及ぼす影響は大きいと考えられる。これらの考えを基本に、慢性疾患々者の保健信念とセルフケア行動の関係を図のようなモデルに表わし、保健信念が積極的・肯定的であれば、その患者のセルフケア行動の遂行度は高いであろうということを明らかにする目的で本研究を行った。

方法 1. 対象：都内某私立総合病院慢性疾患クリニックで疾病管理中の20才以上70才未満の保存療法期にある慢性腎疾患々者91名を対象とした。
2. 質問紙の作成：患者に対する質問紙は、保健信念、セルフケア行動、修飾因子、ソーシャルサポートに関する8問146項目で作成した。保健婦による患者のセルフケア行動評価票は、セルフケア行動に関する3問10項目で作成した。
3. 実施法：昭和59年9月19日より11月21日までにクリニックに来診した患者に質問紙を手渡し、原則として患者が自己記載し、評価票は予診担当保健婦が記載した。

結果 1. 保健信念とセルフケア行動の関係：保健信念全体（図参照）とセルフケア行動とは有意な相関（ $r = 0.339$ ）が示された。そして保健信念に含まれる5つの要素のうち、セルフケアの効果性・便宜性（ $r = 0.438$ ）、健康の重要性（ $r = 0.345$ ）がセルフケア行動と最も高い相関があった。また自尊感情も有意な相関（ $r = 0.224$ ）を示した。病気への恐れは単独では相関がなかったが、セルフケアの効果性・便宜性、健康の重要性とは正の相関があり、重回帰分析によりセルフケア行動に抑制的な影響（ $\beta = -0.222$ ）を示した。自己管理態度（Health Locus of Control）とセルフケア行動は有意な関係がみられなかった。

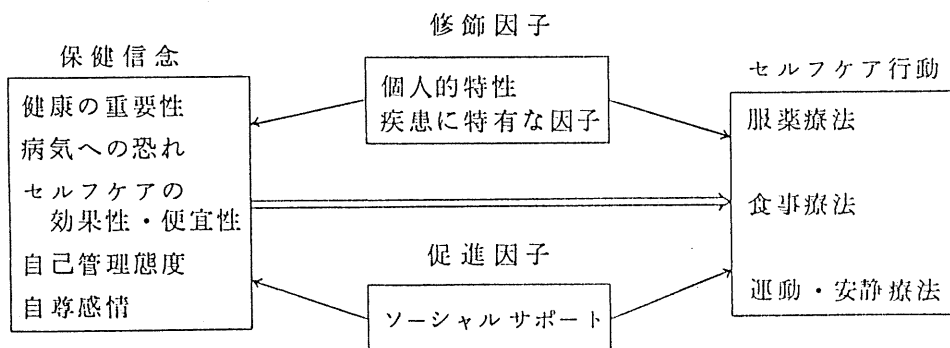


図 慢性疾患々者のセルフケア行動における保健信念モデル

2. 保健信念・セルフケア行動と修飾因子の関係：男性は女性より保健信念とセルフケア行動の相関が高く、女性は保健信念に関係なくセルフケア行動の遂行度が高い傾向にあることが示された。年齢は服薬療法に促進的な、そして食事療法に抑制的な影響を示した。また配偶者のいることは、保健信念やセルフケア行動に促進的な影響を及ぼしていることを示した。

3. 保健信念・セルフケア行動とソーシャルサポートの関係：ソーシャルサポートは、保健信念と有意な相関（ $r = 0.233$ ）を示した。しかしセルフケア行動とは有意な関係が見られなかった。

考察 保健信念に含まれる5つの要素のうち、セルフケアの効果性・便宜性や健康の重要性がセルフケア行動と最も高い相関を示したことは、Hallel や Becker らの研究結果とも一致している。これは指示あるいは指導されたセルフケア行動が、その人にとって効果がありそれほど支障なく行えると考えている人ほど、また健康の価値を認め健康への関心が高い人ほどセルフケア行動の遂行度は高いことを示していると考えられる。

病気への恐れは、上記2つの要素とは正の相関を示し、重回帰分析ではセルフケア行動に抑制的な影響を及ぼしていることより、セルフケアが効果があり支障なく行えると考え、健康の重要性を認めている人は、病気への恐れも持っているが、それが大きくなりすぎるとセルフケア行動の遂行度を低める方向に働くと考えられる。

自己管理態度とセルフケア行動に有意な相関がみられなかったことは、日本人にとって健康問題解決の主体は自分自身であるという考え方をする自己管理態度がまだ確立されておらず、医療従事者の指示に服従するのは当然であるとする考えなどが結果に影響を及ぼしていると考えられ、日本人に適合した質問紙の作成が今後の課題であると思われる。

自尊心とセルフケア行動に有意な相関が認められたことは、病気を持つことにより自己像の変更を余儀なくさせられる自分自身に対してもなお、自尊心を持ち続けることが、セルフケア行動の遂行度を高めることにつながることを示していると考えられる。このことはセルフケアを援助する看護者にとって、特に配慮すべき点ではないかと思われる。

以上のことより、健康は重要だと考え、自分自身の病気についての恐れが余り大きくなく、セルフケア行動は効果がありそれほど支障なく行なえると考え、健康問題解決の主体が自分自身にあると考え、自分の価値を認め大切に思っている人が、セルフケア行動の遂行度が高いと言えるだろう。このことは、慢性腎疾患々者の保健信念が積極的・肯定的であれば、セルフケア行動の遂行度は高いことを表わしていると考えられる。

本研究は慢性腎疾患々者を対象にしたが、他の慢性疾患の場合も、疾病の経過やセルフケア行動の内容等に共通点が多いことから、当研究の結果を広く慢性疾患々者に適用できる可能性があると考えられる。

結論 慢性腎疾患々者の保健信念が積極的・肯定的であれば、セルフケア行動の遂行度は高いことが明らかにされた。